

提出書類（様式1～4）の記入要領

<機関長推薦の場合>

【共通事項】

- ・日本語（様式3及び様式4は英語も可）で記入してください。
- ・様式は加工しないでください。頁の追加・削除等はできません。
※ただし、様式1はPDFを加工して、日付けを入力してもかまいません。また、様式4の「Ⅱ【研究業績】」については、必要がある場合は頁の追加が可能です。
- ・本会が指定した書類以外のものを添付することはできません。また、新たに用紙を加えることもできません。
- ・電子申請にあたっては、「第15回（平成30年度）日本学術振興会賞 電子申請システム入力マニュアル（機関長推薦）」（http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/data/dennsi_sisutemu_M.pdf）を必ず参照してください。
- ・研究科長や大学共同利用機関法人の各研究所長等からの推薦は「個人推薦」の取扱いとなります。

【様式1 記入方法】

1. 「戸籍名」

電子申請システム該当項目に候補者の戸籍名を記入してください。（姓と名の間を1文字分あけてください。）また、本項目以外の候補者氏名記入欄に関しては、様式2③氏名と一致させたものを記入してください。（下記【様式2 記入方法】の「4. ③氏名」を参照してください。）

【様式2 記入方法】

1. 「①区分」

HPに掲載している「区分一覧」を参照して、候補者の所属研究科等にかかわらず、研究テーマに最も合致すると思われる「コード・区分」を一つ選択してください。（複数ある場合は二つまで選択することが可能です。）

2. 「②専門分野」

候補者が現在専門としている分野を簡潔に記入してください。

3. 「推薦理由書作成者」

候補者の研究業績及び推薦書の妥当性に関し、様式3を作成する者です（2名必要です）。候補者の研究をよく理解している研究者とし、少なくとも1通は候補者の所属機関以外の研究者が作成することが望ましいです。また、推薦理由書作成者は、推薦者又は候補者と同一人物であってはなりません。

4. 「③氏名」

候補者の氏名を記入してください。研究上、通称名（旧姓等）を使用している場合は、それを用いることができます。

氏名は漢字等により記入し、ローマ字表記およびフリガナを併記してください。（姓と名の間を1文字分あけてください。）

記入例：Gakushin Hanako

ガクシン ハナコ

学振 花子

外国人の場合も姓・名の順で記入し、漢字で記入できない場合は、姓名はカタカナで、ミドルネームはイニシャル（アルファベット）のみを記入してください。

記入例：Newton S. Isaac

ニュートン S. アイザック

ニュートン S. アイザック

5. 「④性別」

該当する性別を選択してください。

6. 「⑤国籍」

該当するものを記入してください。

※デフォルトで日本と表示するように設定しています。外国籍の場合は修正してください。

7. 「⑥生年月日」

西暦で記入してください。

※月日は選択してください。

8. 「⑦連絡先」

連絡先として希望する方を選択してください。

9. 「⑧現職」

推薦書作成時点の現職を記入してください。

10. 「⑨勤務先又は自宅住所」

推薦書作成時点の「⑦連絡先」で選択した住所を記入してください。

なお、連絡先は日本国内に限ります。日本国内に住所がない場合でも、実家等国内の住所を記入してください。

11. 「⑩略歴」

4. の博士（ ）内には、取得した博士の学位に付記された専攻分野名を記入し、末尾に大学名を記入してください。

また、博士課程を単位取得退学の場合は、3. にその旨を記載してください。

なお、博士の学位を取得していない候補者は、博士号取得者と同等以上の学術研究能力を有することが確認できる書面をご提出ください。

⑩略歴 4. の記入例：

「4. 2015年3月 博士（医学）の学位取得（〇〇大学）」

大学等研究機関（民間企業を含む）に採用歴のある者は、採用開始年月と職名等を記入してく

ださい。現在の職には末尾に「（現在に至る）」と記入してください。なお、兼務、兼職は記入する必要はありません。

⑩略歴 5. ～の記入例：

「7. 2011年4月 ○○大学○○研究科助教

8. 2016年4月 ○○大学○○研究科准教授（現在に至る）」

また、外国人研究者にあつては、本欄で資格要件（我が国で5年以上研究者として大学等研究機関に所属）を確認することとなりますので、来日の時期及び本邦での研究活動は必ず記入してください。

1 2. 「⑪海外での研究経歴」

海外での研究経歴がある候補者はその旨記入してください。

なお、記入対象は概ね1ヶ月以上の海外での研究経歴とします。

⑪海外での研究経歴の記入例：

「2011年7月～2011年9月 ○○大学訪問研究員（英国）」

1 3. 「⑫研究テーマ」

和文で40字以内（記号、数字等もすべて1字として数えます。）で簡潔に記入してください。化学記号、略号はなるべく避けてください。また、上段に和文、下段にその英訳（256字以内）を記入してください。

1 4. 「⑬推薦理由」

字数の制限はありませんが、様式に収まるよう記入してください。なお、専門用語の使用は極力避け、専門外の者でも理解しやすい内容となるような記述が望ましいです。

【様式4 記入方法】

「Ⅱ 研究業績（主な論文又は著書等一覧）」については、原則全著者名の記載となりますが、著者名が著しく多い場合には、グループ名等にまとめることができます。

未公表であるが、学術誌へ掲載が決定されている論文については、以下のように記入してください。

全著者名， 論文題目， 掲載誌名， 掲載決定通知の年月（状況）

・ 「（状況）」の記載例・・・accepted、in press、forthcoming など

その他の記入にあたっては様式内の記載事項を参照してください。

<個人推薦の場合>

【共通事項】

- ・日本語（様式3及び様式4は英語も可）で記入してください。
- ・様式は加工しないでください。頁の追加・削除等はできません。
※ただし、様式4の「Ⅱ【研究業績】」については、必要がある場合は頁の追加が可能です。
- ・写しは、A4版を片面印刷としてください。
- ・本会が指定した書類以外のものを添付することはできません。また、新たに用紙を加えることもできません。
- ・研究科長や大学共同利用機関法人の各研究所長等からの推薦は「個人推薦」の取扱いとなります。

【様式1記入方法】

1. 「推薦者所属機関名」及び「推薦者名」
「推薦者所属機関名」に推薦者の所属機関名を、「推薦者名」に職名及び氏名を記入してください。
2. 「候補者氏名」
候補者の氏名（様式2.③氏名と一致させたもの、下記【様式2記入方法】の「4. ③氏名」を参照してください）と戸籍名を、下記の例に従って記入してください。（姓と名の間を1文字分あけてください。）また、本項目以外の候補者氏名記入欄に関しては、様式2.③氏名と一致させたものを記入してください。

記入例：

No.	候補者氏名	所属、職名又は身分
1	ガクジン ハナコ 学振 花子 (四谷 花子)	▲▲研究所 主任研究員
2	ガクジン イチロウ 学術 一郎 (学術 一郎)	■■大学文学部 教授

上段：候補者氏名（様式2.③氏名と一致させたもの）を記入してください。
下段：()内に戸籍名を記入してください。

上段・下段の氏名両方にフリガナを記入してください。

【様式2記入方法】

1. 「①区分」
HPに掲載している「区分一覧」を参照して、候補者の所属研究科等にかかわらず、研究テーマ

に最も合致すると思われる「コード・区分」を一つ記入してください。（複数ある場合は二つまで記入することが可能です。）

記入例：41 社会経済農学、農業工学およびその関連分野

2. 「②専門分野」

候補者が現在専門としている分野を簡潔に記入してください。

3. 「推薦者所属機関名」及び「推薦者名」

「推薦者所属機関名」に推薦者の所属機関名を、「推薦者名」に職名及び氏名を記入してください。

4. 「推薦理由書作成者」

候補者の研究業績及び推薦書の妥当性に関し、様式3を作成する者です（2名必要です）。候補者の研究をよく理解している研究者とし、少なくとも1通は候補者の所属機関以外の研究者が作成することが望ましいです。また、推薦理由書作成者は、推薦者又は候補者と同一人物であってはなりません。

5. 「③氏名」

候補者の氏名を記入してください。研究上、通称名（旧姓等）を使用している場合は、それを用いることができます。

氏名は漢字等により記入し、ローマ字表記およびフリガナを併記してください。（姓と名の間を1文字分あけてください。）

記入例：Gakushin Hanako
ガクシン ハナコ
学振 花子

外国人の場合も姓・名の順で記入し、漢字で記入できない場合は、姓名はカタカナで、ミドルネームはイニシャル（アルファベット）のみを記入してください。

記入例：Newton S. Isaac
ニュートン S. アイザック
ニュートン S. アイザック

6. 「④性別」

該当する数字を○で囲んでください。

7. 「⑤国籍」

該当するものを記入してください。

8. 「⑥生年月日」

西暦で記入してください。

9. 「⑦連絡先」

連絡先として希望する方を選択してください。

10. 「⑧現職」

推薦書作成時点の現職を記入してください。

11. 「⑨勤務先又は自宅住所」

推薦書作成時点の「⑦連絡先」で選択した住所を記入してください。なお、連絡先は日本国内に限ります。日本国内に住所がない場合でも、実家等国内の住所を記入してください。

12. 「⑩略歴」

4.の博士（ ）内には、取得した博士の学位に付記された専攻分野名を記入し、末尾に大学名を記入してください。

また、博士課程を単位取得退学の場合は、3.にその旨を記載してください。

なお、博士の学位を取得していない候補者は、博士号取得者と同等以上の学術研究能力を有することが確認できる書面をご提出ください。

⑩略歴 4. の記入例：

「4. 2015年3月 博士（医学）の学位取得（〇〇大学）」

大学等研究機関（民間企業を含む）に採用歴のある者は、採用開始年月と職名等を記入してください。

現在の職には末尾に「（現在に至る）」と記入してください。なお、兼務、兼職は記入する必要はありません。

⑩略歴 5. ～の記入例：

「7. 2011年4月 〇〇大学〇〇研究科助教

8. 2016年4月 〇〇大学〇〇研究科准教授（現在に至る）」

また、外国人研究者にあつては、本欄で資格要件（我が国で5年以上研究者として大学等研究機関に所属）を確認することとなりますので、来日の時期及び本邦での研究活動は必ず記入してください。

13. 「⑪海外での研究経歴」

海外での研究経歴がある候補者はその旨記入してください。

なお、記入対象は概ね1ヶ月以上の海外での研究経歴とします。

⑪海外での研究経歴の記入例：

「2011年7月～2011年9月 〇〇大学訪問研究員（英国）」

14. 「⑫研究テーマ」

和文で40字以内（記号、数字等もすべて1字として数えます。）で簡潔に記入してください。化学記号、略号はなるべく避けてください。また、上段に和文、下段にその英訳（256字以内）を記入してください。

15. 「⑬推薦理由」

字数の制限はありませんが、様式に収まるよう記入してください。なお、専門用語の使用は極

力避け、専門外の者でも理解しやすい内容となるような記述が望ましいです。

【様式 4 記入方法】

「Ⅱ 研究業績（主な論文又は著書等一覧）」については、原則全著者名の記載となりますが、著者名が著しく多い場合には、グループ名等にまとめることができます。

未公表であるが、学術誌へ掲載が決定されている論文については、以下のように記入してください。

全著者名， 論文題目， 掲載誌名， 掲載決定通知の年月（状況）

・ 「（状況）」の記載例・・・accepted、in press、forthcoming など

その他の記入にあたっては様式内の記載事項を参照してください。